

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2013年11月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第549号

2011年3月11日の、突然の福島原発の暴走は、世界の人々の心を凍らせた。高度な科学・技術の成果の上に立つ私たちは、地の動きも、水の動きもとくに知り尽くしており、精緻な計算に基づいて家を建て、道を作り、原子力発電所を築いてきたので、どんな時にも安心だと思いついてきた。しかし一瞬の地震と津波、それに続く原子炉事故により、多くの家や道路が跡形もなく消え去り、18,000人もの人が命を失い、16万人もの人がその住むところを追われた。破損した原子炉は今も放射能を出し続け、冷却水は周囲の環境を汚染して留まるところを知らない。破損した原子炉を收拾する用途は立たず、全国の原発から用済みとして出された膨大な量の核燃料棒は、10万年もの間放射能を出し続けるのに、処分する方策も立てられないでいる。

それにも拘わらず我が国は、福島原発事故の放射能汚染はすでに完全に制御されたと世界に宣言し、オリンピックを招致するのに成功した。福島原発事故直後に厳しく



財団代表理事  
関西セミナーハウス活動センター運営委員長  
小久保 正

## 私たちは、何ものなのか

非難された、臭いものに蓋をする安全神話が、早くもまた幅を利かせ始めた。この安全神話の上に立つて、原発の再稼働が計られ、外国企業までも買収して、原発を世界に普及させようとする策が着々と進められている。偏に経済的繁栄のためである。都合の悪い話を耳を傾けず、偽りの上に立つて、安心だ、安心だと

言い広げ、他人も、自分も欺く者は、その報いを恐れなければならぬ。

原子力技術だけでは無い。iPS細胞を初めとする生命操作技術においても然りである。iPS細胞を利用して動物の体までも操作し、人の組織や臓器を思うように作るうとする試みが進んでいる。出生前の胎児を簡単な方法で診断し、自

分の好みに合う子供だけを選び分けようとする試みも進んでいる。これらの試みは患者のためと言われるが、その実は、際限なき力の拡大と、それによる隣人と自然の制覇ではないか。

科学・技術の成果は、他者や自然を支配するためではなくなる。

く、他者や自然と共生するためにのみ用いられなければならない。自然現象を、私達の望み通りに従わせ得るなどと思いついてはならない。私たちは、この世界の支配者ではない。人は何のために生きるかを問わない科学・技術は禍である。「人が全世界をもうけても、自分の命を損じたら、なんの得にならうか」(マタイによる福音書16)である。

小久保 正

こうした社会の流れを背景としつつ、原子力発電を根源的に考え直してみたいと思いい、昨年「原子力発電の根本問題と我々の選択」と題する1泊2日の修学院フォーラムを、福島原発事故独立検証委員会委員長の北澤宏一氏と、神学者の栗林輝夫氏を発題者に迎えて開催した。その内容豊かな集会報告が最近、新教育出版社から同名の書籍として出版された。

これを受けて、来年1月12〜13日には、「福島原発事故を原点に据えて、日本と世界の歩むべき方向を探る」と題する修学院フォーラムを、政治学者の姜尚中氏と牧師の上山修平氏を発題者に迎えて開催する予定である。多くの人がこの会に集い、真摯にこの問題を考えて下さり、その成果を日本の社会に問うことができることを願っている。クリスチャン・アカデミーは、これらの集会とその成果の発信を通して、日本社会の要所、要所に杭を打ち込むことができるものでありたい。

(中部大学教授、京都大学名誉教授)

関東活動センター

シリーズ「今、哀しみの最前線」第1回  
「在宅ホスピスの現場からみた医の原点」

在宅ケア支援グループ・パリアン代表 川越 厚さん

2013年7月20日(土)

日本キリスト教会館



今日8割前後の方々が「病院で死ぬ」というのが実情と思われるが、その一方で人生の最後の時を住み慣れた自宅で迎えたいと願う人々も確実に増えているという。その願いを実現するために、東京の下町において、約20年にわたって在宅での終末期治療支援を続けてきた、川越厚医師をお迎えして、その現状と課題についてうかがうことができた。医師として在宅ホスピスの現場で見つめてきたこ

と、考えさせられてきたことなどを率直に語って頂いた。

まず川越さんご自身の体験として、茨城県立中央病院婦人科医長、東京大学医学部講師を務めていた時期、39歳の時に結腸癌を経験されたことが紹介された。治療を施す医師という立場ではなく、治療をされる患者の立場に立つことができたことが、その後の歩みに大きな影響を受けることになったこと。さらに近年、お連れ合いが急性骨髄性白血病に罹られたことにより、重い病を発症した家族を看護するという立場を経験された意味も大きいと話された。

「家で死にたい」と願う、死にゆく者への看取りの医療をどのように支えてゆくの

か、TV放映された一人の老人の最期を看取る姉妹の日々をまとめた番組を参加者が実際に見て理解を深めた。老人自身が10数年前に妻を看取ったがゆえに、今度は子どもたちが父の最期を自宅で看取ってゆく日々が描かれていたが、決してキレイごとばかりではなく、一人の人間の人生全てを受け止めながら、何気ない日常を続けてゆく豊かさ

と難しさがある。時に親子のケンカをしながらも、飾らない大切な一日を共に生きる姿が映し出されていた。在宅ホスピスケアは、その家族の傍らで全人的な痛みへのケアを続けてゆく。

死を迎える場所としてのホスピスから、全人的な痛みの緩和を試みる在宅型ホスピスへの変化は、肉体的痛み・心理的痛み・社会的痛み・霊的(spiritual)な痛み全体を理解し、受け止める医療でもある。さらに家族もまたともに病を負った病人として、患者の死後も含めてケアを続けてゆく。

宗教者の関わりでは、宗教的なバックグラウンドは終末ケアにおいては出さな

や、何よりも患者の希望や意思を最大限尊重することを守っていると話された。

参加者からは、今まさに終末を迎えようとする肉親への関わり方の助言を求めめる声等、私たちの誰もが経験する大事な事柄として切実な質問が寄せられた。これから一気に増大する「多死」の時代を前にして、私たちの生の質が問われる講演となった。

関西セミナーハウス活動センター

●2013年度「開発教育セミナー」第4回  
フィールドワーク

「日本の中のアジア、アジアの中の日本」

「ウトロを「歩く・見る・聞く」」

龍谷大学人間科学・宗教総合研究センター 中村 尚司さん

2013年9月14日(土)～15日(日)



セッション1では、中村尚

司さんとともに宇治市ウトロを訪ね、「ウトロ町づくり協議会」の榎本明夫さんに案内をしていただいた。ここは戦時中に京都飛行場建設に動員(強制連行はなく一般募集)された朝鮮人労働者1300人の飯場跡である。当時のバラックが崩れそうになりなが





に残っていた。敗戦で放置され、帰るに帰れずこの地に住み続けた人々は、1987年土地所有者が他の業者にウトロを転売したため、立ち退きを迫られた。80世帯の住民は団結して闘ったものの、2000年の最高裁で敗訴。ところが、ニューヨークタイムスに掲載した広告が目され、2005年に韓国のNGOのK I N (Korean International Network) が募金運動を展開して状況が一変。2007年に韓国政府が30億ウォン(約2億円)を計上して基金を作り、民間募金約1億3千万円とあわせて土地所有者から土地を一部買い上げることができた。その土

地に市営住宅を建設して、残りの住民も入る予定という。ここまでの道程で支えになったのが、これは日本人の問題だからと支援を惜しまなかった市民団体「ウトロを守る会」だそう。厳本さんは、今後日本籍に変わる在日コリアンは増えるだろうが、日系アメリカ人が国籍はアメリカでも日本人のアイデンティティを大切にしているように、韓国系日本人として誇りを持って生きていきたい、そして植民地支配や戦争責任について、日本人に考えてほしいと述べた。

その後久御山町公民館で、朝鮮半島と同じ井戸などの遺跡を見て、巨椋池を作った人々が朝鮮から渡来した人々であり、ヤマト政権との関わりが深かったことを学んだ。バスに乗りしてからも、中村さんの京都ガイドは冴え渡った。

セッション2では、ワールドワークの感想を述べ合った後、サハリン残留韓国人の調査について中村さんの話を聞いた。さらに、北方領土返還を主張する人に、もし日本に返還されたらロシア人住民

をどうするのかと尋ねたら、何も考えていなかったという話から、近隣の人と仲良くする、人と人との関係を大事にするという「民際学」の話へと展開していった。

翌日のセッション3では、フィリピン・ボホール島の2つの村を比較するアクティビティを行った。JICAも計画に関わった灌漑のためのダム建設は不備だらけなのに、村は借金づけになっている。中村さんはかつてボホールで本物の物々交換を見て、天国に最も近い島だと感じたそう。借金も、土地売買も、賃労働もなかった。生活の知恵があるのに、靴下をはかせられて学校に通わされるようになり、開発にむらがる人々によって収奪の輪に飲み込まれていく。あらゆる物質は時間がたてば崩壊するの、なぜ金だけは価値が増えるのか？中村さんは、現金が増えないくらしを模索していた。

「生命系の経済学」のキーワードは、循環、多様性、関係性。「発展」は自動詞だが、「開発」は他動詞でだれかを变えることである。東日本大震災の津波で流された所

は、伊達政宗が新田開発した所だったという話は警句として響いた。何のため、だれのための開発かを問うていきたい。

〈協力プログラム〉

金属労協

第45回 労働リーダーシップコース

主催 全日本金属産業労働組合協議会 (JCM)

2013年10月7日〜19日

今回で45回を数える金属労協の労働リーダーシップコース(香川孝三校長)が、2週に亘り、開催された。これまでの一月から十月に期が移された。

初の女性級長をはじめ、39名の受講生は、体系的に構成された講義と、熱心な5名の指導教授の下でのゼミの中で、また、交流会や、毎夜の懇親会で、研鑽を積むと共に互いの交流を深めあった。12日には青木征彦氏(日産自動車監査役)による特別講演「経営と人間」が行われた。



新刊案内

「原子力発電の根本問題と我々の選択 バベルの塔をあとにして」 日本クリスチャン・アカデミー編

北澤宏一・栗林輝夫著 1890円(税込) 新教出版社

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座

「聖書によれば同性愛は罪?ーわたらしい性と生のために」

講師: 山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時: 2013年4月~12月の第2月曜日(18:30~20:00)

⑦11月11日 ⑧12月9日

全8回 \*第1~6回は終了

会場: 日本キリスト教会館6階会議室

参加費: 1,200円(学生500円)

共催: 早稲田奉仕園

■神学生交流プログラム

「今改めて十字架の神学を考える」

日時: 2014年3月27日(木)~29日(土)

開場: イエズス会無原罪聖母修道院・東京黙想の家

対象: 各神学校から推薦を受けた学生

共催: 関西セミナーハウス活動センター

◆関西セミナーハウス 修学院きらら山荘

■能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘<特別公演>もみじまつり薪能『巴(ともし)』

日時: 2013年11月22日(金) 17:00~

解説・出演: 林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場: 関西セミナーハウス

特別鑑賞料金: 2,500円/大学生 2,000円/小・中高生1000円

■月釜 清心会

日時: 2013年12月8日(日)

財団本部 http://www.academy-nippon.com  
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com  
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/  
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 小久保 正

本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス / 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

9:00~15:00 受付 (1,8月を除く年10回)

於: 関西セミナーハウス 年会費: 5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター 2013年度開発教育セミナー

第6回「気づきと対話のファシリテーション~アジアの共存と平和~」

講師: 池住 義憲さん(立教大学大学院教授)

日時: 12月14日(土)16:00~15日(日)12:00

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 10,500円(1泊2食込)

■2013年度修学院フォーラム

「エネルギーを考える」

第1回「チェルノブイリと福島から」

講師: 山崎 知行さん(医師)

日時: 2013年11月30日(土) 13:30~17:30

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 1,000円/学生500円

第2回「福島原発事故を原点に据えて、日本と世界の歩むべき方向を探る」

講師: 姜 尚中さん(聖学院大学全学教授)

上山修平さん(日本キリスト教会横浜海岸教会牧師)

日時: 2014年1月12日(日) 16:00~13日(月祝)16:00

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 12,000円(1泊3食込)/学生5,000円

◆関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催

■2013年度 もみじまつり

日時: 2013年11月23日(土・祝) 9:00~16:30

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 前売3,000円(茶席2席(内1席野点席)、弁当込)

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2013年9月1日~2013年9月30日 (順不同・敬称略)

◆財団本部

寄付金

棟方 信彦 10,000  
早稲田教会 25,000

◆関東活動センター

賛助会費

高橋 浩 5,000  
中富 穎隆 5,000  
山田 利三郎 5,000  
竹政 志郎 5,000  
河波 昌 5,000  
藤野 冷子 5,000  
深津 容伸 5,000  
只野 哲 5,000  
坂下 道朗 5,000

寄付金

匿名 500,000  
戒能 信生 20,000  
松本 敏之 5,000

◆関西セミナーハウス

寄付金

初田 勝 10,000  
菊岡 克彦 10,000  
武田薬品京都農園退職者親睦会 5,000

えんじゅ会 10,000

八田 尚嘉 3,000

片桐 ユズル 10,000

長谷川 義紘 10,000

岡本仁彦・義子 10,000

奥田 正義 10,000

堀 和子 5,000

小西 忠雄 5,000

山崎 満 10,000

広田 吉久 10,000

中村泰洋園 中村英明 10,000

全労済中日本事業本部 北田智明 20,000

垂水 百合子 3,000

岩堀 敬子 5,000

津田 友一 5,000

大原 松雄 50,000

松崎 康弘 10,000

北織 清 5,000

清水 憲一 5,000

藤井 正美 10,000

株式会社トヨタヤ

宮本大右 3,000

矢倉 弘泰 5,000

玉屋珈琲店 玉本久雄 10,000

田中 尚子 3,000

山中 博 10,000

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

日本基督教団箕面教会 5,000

植村 敏子 3,000

井上 勇一 5,000

日高 正宏 10,000

木下 寿子 5,000

織田 雪江 5,000

シュペネマン クラウス 5,000

岡部 元英 5,000

森口 克洋 10,000

蔭山 淳 10,000

寄付金

匿名 500,000

井上 勇一 5,000

日高 正宏 10,000

金山 顕子 9,260

山野 直美 500

有賀 のゆり 3,000

浦 晴子 10,000

長谷川 義紘 10,000

シュペネマン クラウス 20,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。